

経営比較分析表／団体全体（令和4年度決算）

岩手県

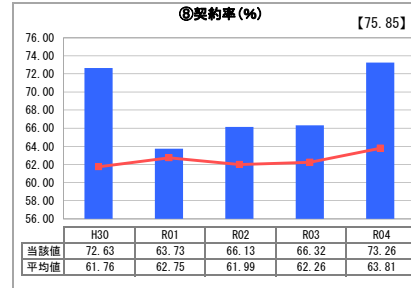
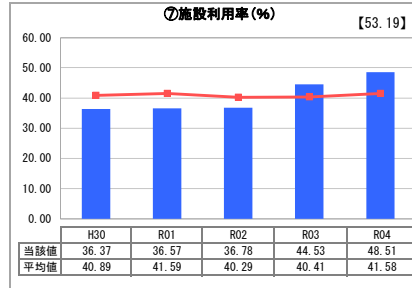
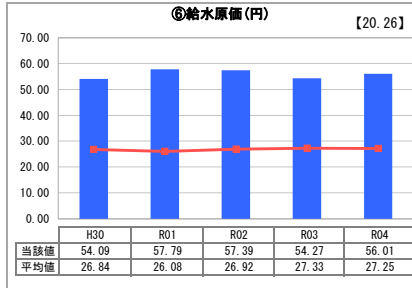
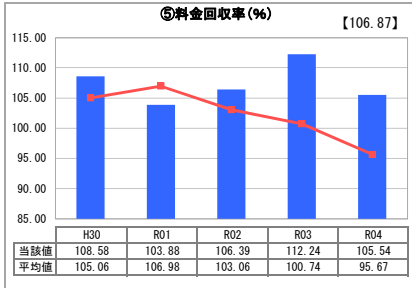
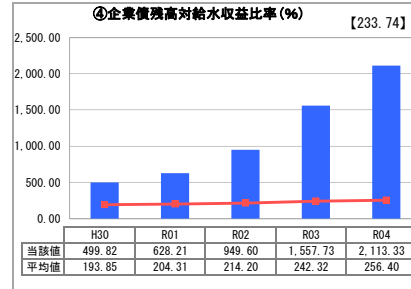
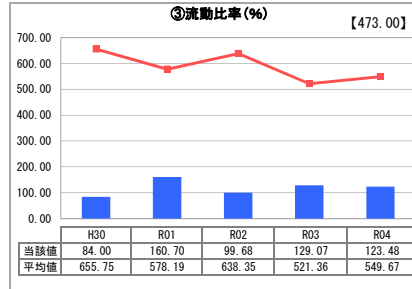
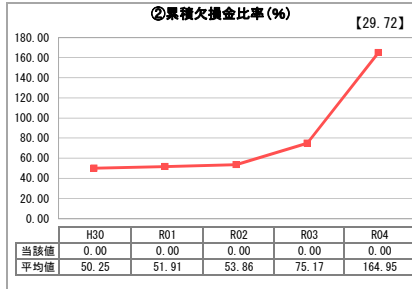
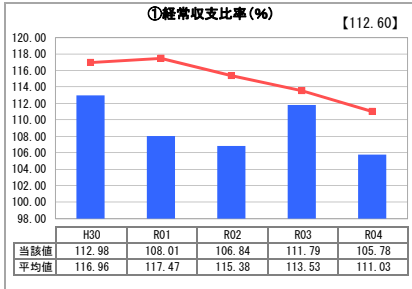
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	54,498	中規模	1	26.438
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	19.5	24	39,925	自治体職員	

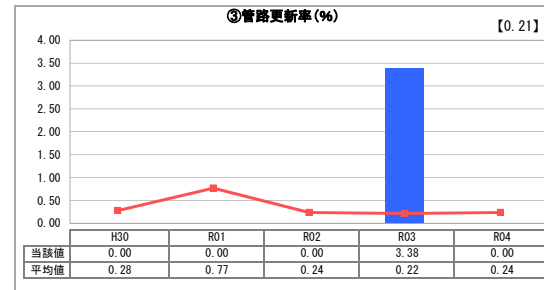
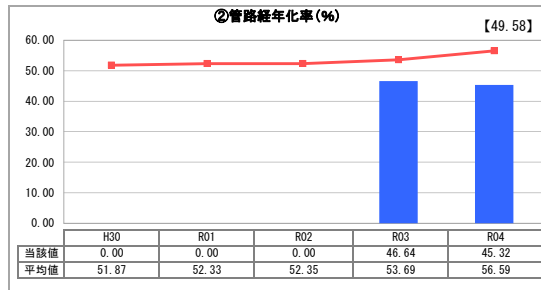
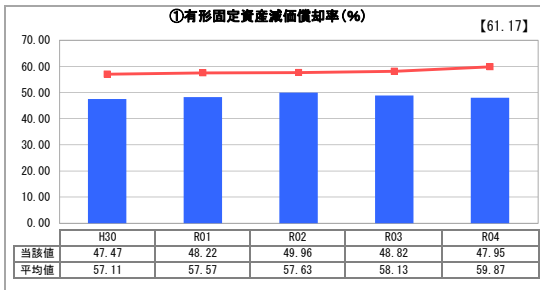
グラフ凡例

- 当該団体の値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和4年度は、ユーザー企業の契約水量の増等により料金収入が増加したが、電気料金の高騰による動力費の増や減価償却費の増等により費用も増加した。このため、「①経常収支比率」は前年度に比べて減少したものの、100%を超える水準で推移しており、「累積欠損金比率」は該当が無い状況にあることから、経営の健全性は確保できている。「③流動比率」は、100%を超えており短期支払い能力は十分に備えているが、「④企業債残高対給水収益比率」が上昇傾向にあることから、引き続き今後の推移に留意が必要である。「⑤料金回収率」、「⑦施設利用率」及び「⑧契約率」は契約企業の事業拡大の影響やユーザー企業に対する訪問活動の強化等に取り組んだことにより平均値を上回る水準にある。一方で、「⑥給水原価」は過去の設備投資が多額であったため、企業債残高や減価償却費等が高額となっており、平均値よりも高い水準であることから、今後も更なる費用の削減に努めていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」及び「②管路経年化率」は、平均値より低い水準にはあるが、「③管路更新率」が低いことから、施設の劣化状況やアセットマネジメント計画に的確に反映しながら、計画的な修繕・改良に取り組んでいく必要がある。

全体総括

経営の健全性・効率性においては、平均値を下回る指標も散見され、経常収支比率は前年度を下回る結果となっている。また、今後の水需要の動向が不確定な状況にあるほか、令和5年度以降は新北上浄水場の減価償却が始まるなど、経営状況は厳しさを増していくものと見込んでいることから、「長期経営方針(2020~2029)」及び新たに策定する「第2期中期経営計画」に基づき、経営基盤の強化に取り組んでいく。